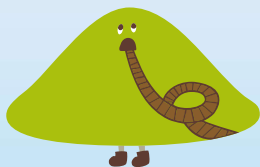


大阪教育大学教育学部
学修成果評価システム
学修ポートフォリオ(学びの履歴)



大阪教育大学教育学部
学修成果評価システム
学修ポートフォリオ(学びの履歴)

【2026】

目次

学修成果評価システムとは	2
「学修ポートフォリオ」【学修成果シート・履修カルテ】	3
【学修成果シート・履修カルテ】入力スケジュール	4
【学修成果シート・履修カルテ】操作マニュアル	5

教職課程(教育実習等参加者)用

教師になるために必要な資質能力を身につける	12
-----------------------------	----

教職課程(教育実習等参加者)用 ポートフォリオ

4年間の教職実践の学びとポートフォリオ	14
教育実習カレンダー	16
「学修ポートフォリオ」【教育実習等の記録】	17
【教育実習等の記録】入力スケジュール	18
【教育実習等の記録】操作マニュアル	19

学修成果評価システムとは

学修成果評価システム(学修ポートフォリオ)は、学生自身が自己の学びをふり返り、学修プロセスや到達目標(卒業までに身に付ける力)への到達度(学修成果)を可視化するものです。このシステム(学修ポートフォリオ)を活用して、主体的に次の学びをデザインしましょう。

それぞれの課程・学科・専攻で定められた到達目標は、本学HPや、冊子「大阪教育大学教育学部学位プログラム」にて確認できます。

▼履修カルテ

学修プロセスの蓄積

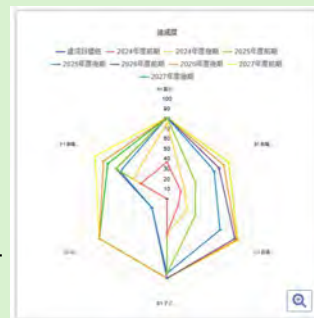
授業の成績や、学外実習、課外活動、ボランティア活動における取り組みの成果を学修ポートフォリオに蓄積します。

履修科目	単位数	履修科目名	単位	成績	修了状況
英語1	2.0	英語1 (English 1)	1.0	合格	
英語2	2.0	英語2 (English 2)	1.0	合格	
英語3	2.0	英語3 (English 3)	2.0	合格	

▼履修カルテ

学修成果の可視化

学位プログラムの到達目標(卒業までに身に付ける力)に対応する授業科目をカリキュラムマップとして整備の上、到達目標への到達度をレーダーチャートにより明らかにします。



学生

学修ポートフォリオを用いた
面談による指導・助言



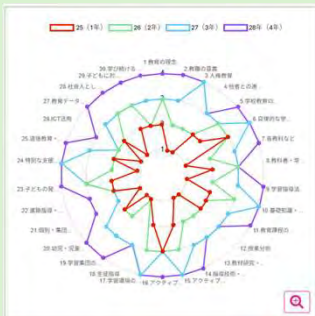
指導教員

▼履修カルテ

教職に求められる資質能力の修得状況

教科・教職科目、ボランティア活動等を通じて学んだことをふりかえり、教職に求められる資質能力(P.3)の修得状況を明らかにします。

※教員免許取得希望者



▼教育実習等の記録

教育実践力の育成

学校における教育実習や、インターンシップによる活動を通じて、これからの教職に求められる実践的資質・能力の形成プロセスを確認します。

※教員免許取得希望者



カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシーで定める到達目標(卒業までに身に付ける力)と各授業科目の対応関係を、専攻・コースごとに明示しています。履修計画のためにも、下のQRコードから、所属する専攻・コースのカリキュラムマップを確認しましょう。



◆学校教育教員養成課程 教科教育専攻(国語教育コース) カリキュラムマップ 大阪教育大学

Diploma Policy	1 国生	2 国生	3 国生	4 国生
教職力を自らひらく力 ICTや教育データを活用する力 子どもへの対応の理解 指導内容の理解と実践力 教職に必要な素養 豊かな教養と広い視野	コア専門科目 ・教育実習(1) (履修必須) ・教育実習(2) (履修必須) ・教育実習(3) (履修必須) ・教育実習(4) (履修必須)	コア専門科目 ・国語教育(1) (履修必須) ・国語教育(2) (履修必須) ・国語教育(3) (履修必須) ・国語教育(4) (履修必須)	コア専門科目 ・国語教育(5) (履修必須) ・国語教育(6) (履修必須) ・国語教育(7) (履修必須) ・国語教育(8) (履修必須)	コア専門科目 ・国語教育(9) (履修必須) ・国語教育(10) (履修必須) ・国語教育(11) (履修必須) ・国語教育(12) (履修必須)

▲学校教育教員養成課程 教科教育専攻(国語教育コース)カリキュラムマップ

学修成果シート 履修カルテ

あなたの学びの軌跡を
学修ポートフォリオに記録しよう

学修ポートフォリオで目標設定と自己評価を進めよう

Live Campusの学修ポートフォリオにある「学修成果シート」と「履修カルテ」などを利用して、あなたの4年間の学びの軌跡を作りましょう。

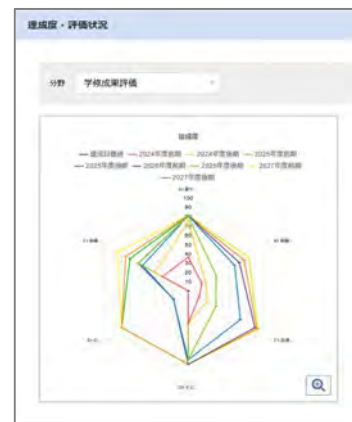
「学修成果シート」には、半期ごとに自分の学修目標を立てて、入力しましょう。また、学期末に、履修した科目ごとにどのような学びがあったかをふりかえり、「履修カルテ(科目の履修状況)」に記録しましょう。学位プログラムの到達目標(卒業までに身に付ける力)にどの程度到達しつつあるかを「成績ダッシュボード」のレーダーチャートで確認し、自分の強みや課題を自己分析しましょう。

学修成果シート

目標設定と指導教員のコメント

成績ダッシュボード

単位を修得した授業をもとに、到達目標への達成度・評価状況を確認します。



学位プログラムで定める 到達目標(卒業までに身に付ける力)

教員養成課程

- ①豊かな教養と広い視野
- ②教職に必要な素養
- ③指導内容の理解と実践力※1
- ④子どもへの対応の理解
- ⑤ICTや教育データを利活用する力※2
- ⑥教職力量を自らひらく力

教育協働学科

- ①豊かな教養と広い視野
- ②教育理解
- ③協働力
- ④探究力
- ⑤専門的知識・技能
- ⑥教育協働実践力

※1 養護教諭養成課程の③は、養護実践力
※2 学校教育教員養成課程のみ

学修ポートフォリオで探究と省察を深めよう

教師ひいては自律した大人になるための学びには、決められた学修目標の達成に向かう学び以外にも、自分自身の問題関心に基づいて探究と省察を繰り返すという学びもあります。

学修ポートフォリオは、試行錯誤の活動を記録に残し、時には探究テーマそれ自体を検討することを通して、探究と省察を支援します。

◇教員免許状取得希望者

教員養成課程と教員免許取得を希望する教育協働学科の学生は、「履修カルテ(自己評価)」を活用して、教職に求められる資質能力(P.3)の修得状況を確認しましょう。

4回生の必修科目「教職実践演習」ではこれらの履歴を用いて4年間の学びを指導教員と一緒にふりかえります。

【学修成果シート】【履修カルテ入力】年間スケジュール

学部学生は全員、毎年度の学期の初めと終わりに、【履修カルテ】の入力を行ってください。

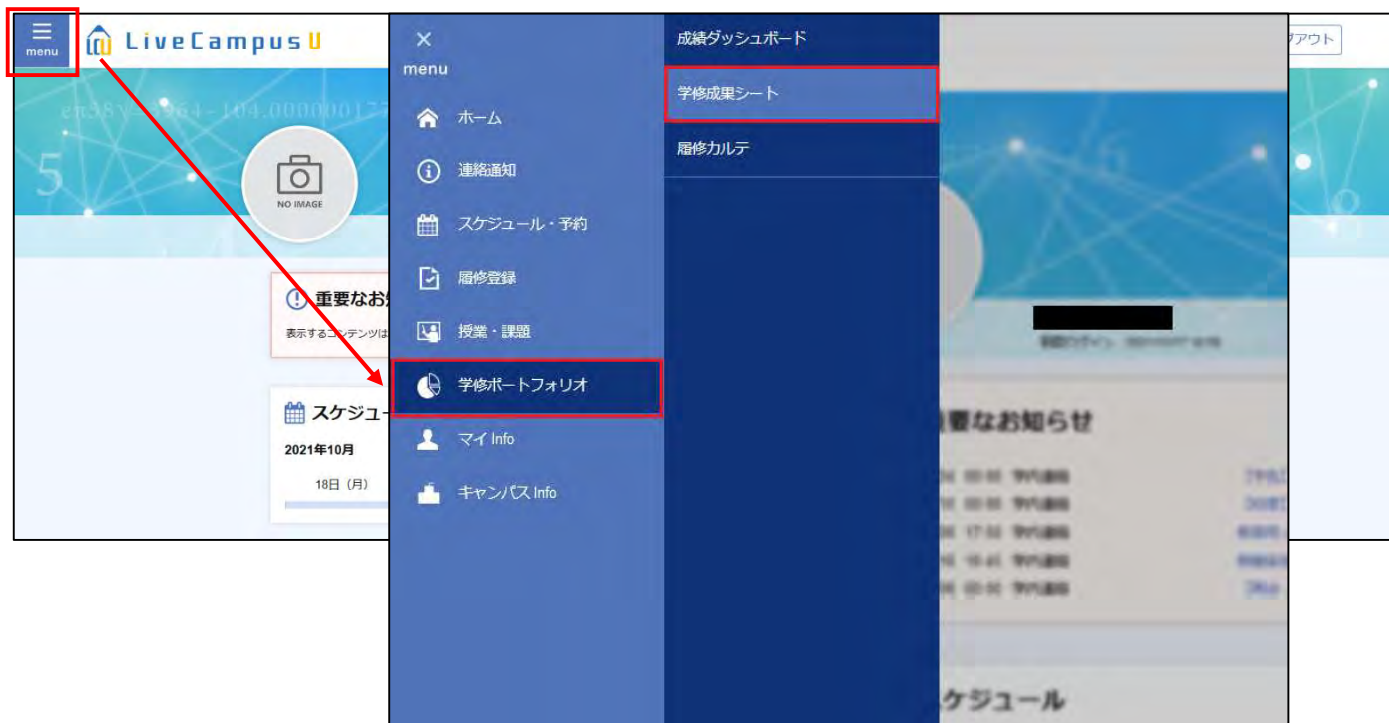
学期ごとの振り返りを行うことで学びの履歴を蓄積し、自身の強みや、まだ弱い部分を分析することができます

		学 生	教 員
前 期	4月初旬 授業開始時	【1.学修成果評価（目標設定時）】 当年度前期の学習や卒業後の 目標を入力 します。	
	9月頃 成績 通知後 ※入力は3 種類	【2.学修成果評価（自己評価時）】 前期初めに設定した 目標へのふりかえり を入力します。 【3.教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価】 各指標について、前期の自己評価 を入力します。 【4.履修カルテ（科目の履修状況）】 前期に履修した 授業科目の学習のふりかえり を入力します。	
	9月下旬～ 10月上旬		【学修成果評価】 学生の前期の目標および学習のふりかえりを確認し、コメントを入力します。
後 期	10月初旬 授業開始時	【1.学修成果評価（目標設定時）】 当年度後期の学習や卒業後の 目標を入力 します。	
	3月頃 成績 通知後 ※入力は3 種類 (教員免許 取得希望者 は4種類)	【2.学修成果評価（自己評価時）】 後期初めに設定した 目標へのふりかえり を入力します。 【3.教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価】 各指標について、後期の自己評価 を入力します。 【4.履修カルテ（科目の履修状況）】 後期(通年含む)に履修した 授業科目の学習のふりかえり を入力します。 【5.履修カルテ（自己評価）】※教員免許状取得希望者 自己評価を行います。	
	3月下旬～ 4月上旬		【学修成果評価】 学生の後期の目標および学習のふりかえりを確認し、コメントを入力します。
随 時		【6.学修成果評価（その他）】 当年度に、授業以外の実習やボランティア活動等があれば、 状況を入力します。	

【学修成果シート】【履修カルテ】 操作マニュアル

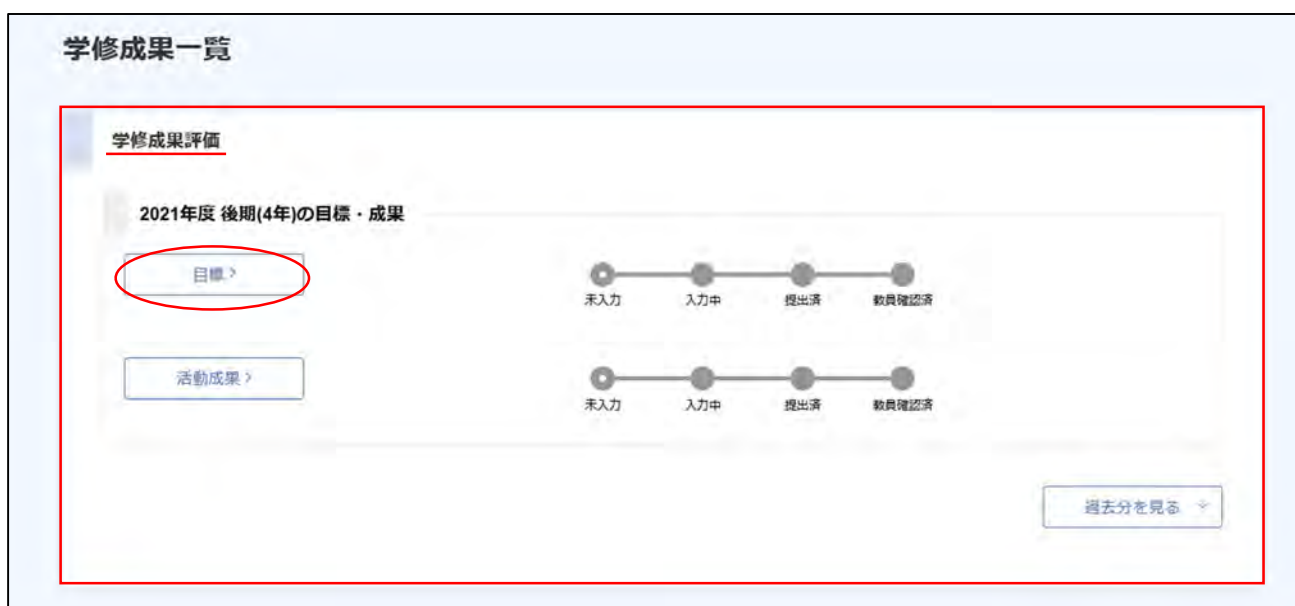
【1.学修成果評価（目標設定時）】

●Live Campus にログインし， menu から「学修ポートフォリオ>学修成果シート」を選択します。



●学修成果評価の「目標」を選択します。

※現在年度・学期が表示されています。「過去分を見る」ボタンから以前の入力内容を参照したり，遡って入力したりすることができます。



- 画面右下の「**目標を編集**」を選択します。

- 「**目標**」欄が編集可能になりますので、**【目標設定】**を入力の上、画面右下の「**登録**」ボタンを選択してください。

【2.学修成果評価（自己評価時）】

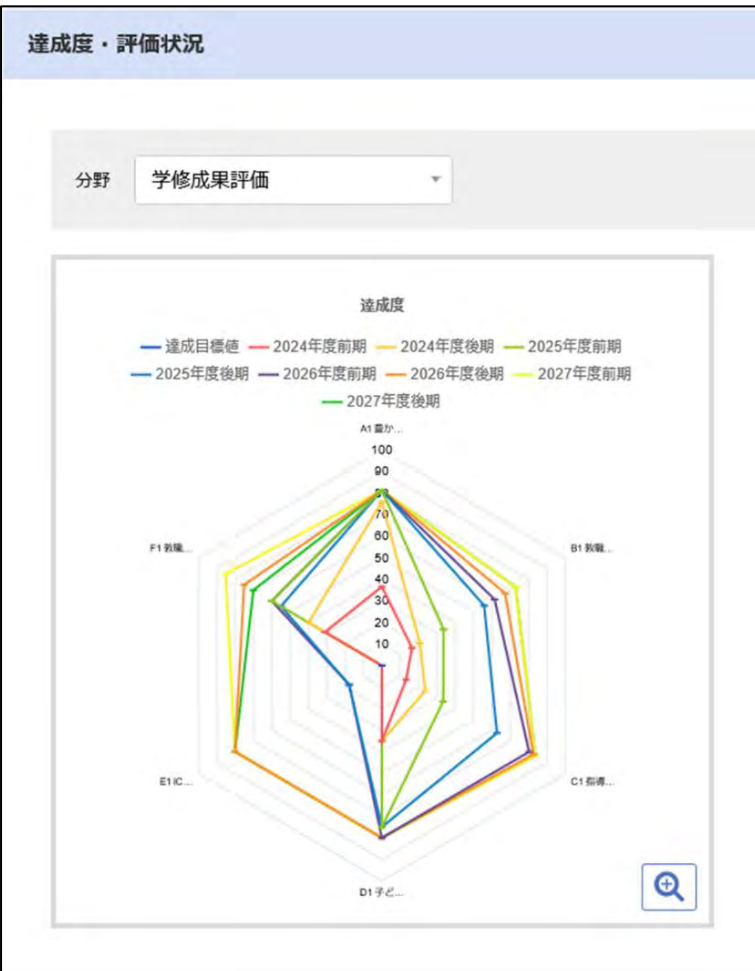
- 【1.学修成果評価（目標設定時）】同様に、画面右下の「**目標を編集**」を選択します。「**目標**」欄が編集可能になりますので、**【自己評価】**を入力の上、画面右下の「**登録**」ボタンを選択してください。

- 【**自己評価**】の登録後、入力内容を確認の上、画面右下の「**目標を提出**」ボタンを選択してください。



- menu から「学修ポートフォリオ>**成績ダッシュボード**」を選択することで、到達目標（卒業までに身に付ける力）への到達度を表すレーダーチャートを確認できます。

全ての授業科目はいずれかの到達目標に対応しますので、授業科目の単位修得状況に応じて、レーダーチャートが拡大していく仕組みとなっています。



【学位プログラムの到達目標】

<教員養成課程>

- ①豊かな教養と広い視野
- ②教職に必要な素養
- ③指導内容の理解と実践力 ※1
- ④子どもへの対応の理解
- ⑤ICTや教育データを利活用する力 ※2
- ⑥教職力量を自らひらく力

※1 養護教諭養成課程の③は、養護実践力

※2 学校教育教員養成課程のみ

<教育協働学科>

- ①豊かな教養と広い視野
- ②教育理解
- ③協働力
- ④探究力 ※3
- ⑤専門的知識・技能
- ⑥教育協働実践力

※3 令和7年度入学生より適用

【3.教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価】

- menu から「学修ポートフォリオ>**学修成果シート**」を選択します。

教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価の「**活動成果**」を選択します。

(「**目標**」も表示されますが、**使用しません**)

学修成果一覧

学修成果評価

2023年度 後期(2年)の目標・成果

目標 >

未入力 入力中 提出済 教員確認済

活動成果 >

未入力 入力中 提出済 教員確認済

過去分を見る

教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価

2023年度 後期(2年)の目標・成果

目標 >

未入力 入力中 提出済 教員確認済

活動成果 >

未入力 入力中 提出済 教員確認済

- まず、「**評価基準（ルーブリック）について**」を選択します。自己評価の目的・情報の取り扱い・回答の考え方をよく読んで理解してください。

- 自己評価の目的や方法について理解した後、画面右下の「**活動成果を編集**」を選択します。

教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価

提出状況
活動成果 | 未入力

2023年度 後期
シート種類: 目標 活動成果

成果

目標種類: 全領域

評価

5
4
3
2
1

自己評価

評価基準 (ルーブリック) について >

評価種類: 目標種類 自己評価

A 教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価

活動成果を編集 活動成果を提出

最初に「評価基準（ルーブリック）について」を選択し、自己評価の目的等を確認してください。

- 「振り返り」の各項目にある「自己評価」を入力してください。
すべて入力後、画面右下の「登録」ボタンを選択してください。

教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価

参照シート：2024年度前期
シート種類：活動成果

提出状況
活動成果：未入力

振り返り

+ 追加

「追加」欄は使用しません

評価基準（ルーブリック）について>

A 教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価

A1 ダイバーシティ教育の力

到達目標	自己評価
ダイバーシティとはどのような理念なのか説明することができる	<input type="radio"/> 1.全くできない <input type="radio"/> 2.ほとんどできない <input type="radio"/> 3.すこしできる <input type="radio"/> 4.できる <input type="radio"/> 5.とてもできる
子どもの多様性を理解し、社会的共生を実現するための学校教育の役割について説明することができる	<input type="radio"/> 1.全くできない <input type="radio"/> 2.ほとんどできない <input type="radio"/> 3.すこしできる <input type="radio"/> 4.できる <input type="radio"/> 5.とてもできる
ダイバーシティに関わる具体的な現代的課題について説明することができる	<input type="radio"/> 1.全くできない <input type="radio"/> 2.ほとんどできない <input type="radio"/> 3.すこしできる <input type="radio"/> 4.できる <input type="radio"/> 5.とてもできる
ダイバーシティ教育の理念に基づいて、授業や学級運営を計画することができる	<input type="radio"/> 1.全くできない <input type="radio"/> 2.ほとんどできない <input type="radio"/> 3.すこしできる <input type="radio"/> 4.できる <input type="radio"/> 5.とてもできる
インクルーシブ教育の理念について説明できる	<input type="radio"/> 1.全くできない <input type="radio"/> 2.ほとんどできない <input type="radio"/> 3.すこしできる <input type="radio"/> 4.できる <input type="radio"/> 5.とてもできる
ダイバーシティの時代における子どもの権利について説明できる	<input type="radio"/> 1.全くできない <input type="radio"/> 2.ほとんどできない <input type="radio"/> 3.すこしできる <input type="radio"/> 4.できる <input type="radio"/> 5.とてもできる

A2 学習者中心の教育の力

< 選択項目(5段階)>
5：とてもできる
4：できる
3：すこしできる
2：ほとんどできない
1：全くできない
(全く分からない)

登録

- 登録後、画面右下の「活動成果を提出ボタン」を選択してください。これで入力完了です。

教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価

参照シート：2023年度後期
シート種類：目標 活動成果

提出状況
活動成果：未入力

成果

目標領域 全領域

評価

評価基準（ルーブリック）について>

目標領域 自己評価

A 教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価

活動成果を編集 活動成果を提出

【4.履修カルテ（科目の履修状況）】

- menu から「学修ポートフォリオ>履修カルテ」を選択します。
履修カルテ一覧が表示されますので、「参照」ボタンを選択後、
画面右下の「履修カルテを編集」を選択します。

履修カルテ

取得予定免許種別

自己評価

評価項目 自己評価集計

自己評価集計

1.教育の理念・教育史・思想の理解
2.教職の意義
3.人権教育
4.他者との連携・協力
5.学校教育の社会的・制度的・経営的理解・学校安全
6.自律的な学習
7.各教科など

履修カルテを編集

履修カルテの提出

- 学期末の成績公開後、「履修カルテ科目の履修状況」欄から、
各科目において学んだことや課題のふりかえりを入力します。
「修得年度」を変更することで、以前に履修した科目のふりかえりを確認、入力することができます。

履修カルテ科目の履修状況

修得年度 2021

要件種別 すべて

科目名	2021年度 ダイバーシティと人権 (x1)
担当教員名	森 実
単位	2.0
成績	82 優
学んだこと・課題	

科目名	2021年度 英語 (C) Ia (x7)
担当教員名	山田 正義
単位	1.0
成績	84 優
学んだこと・課題	

- 入力後は、画面右下の「登録」ボタンを選択してください。登録は何度でも行うことができます。

【5.学修成果評価（その他）】

- menu から「学修ポートフォリオ>学修成果シート」を選択し、学修成果評価の「活動成果」を選択してください。
当年度学期中に、授業以外の実習やボランティア活動等があれば、「授業以外の実習やボランティア活動の状況」欄に入力してください。

学修成果評価

参照シート：2021年度後期

シート種類：活動成果

提出状況
活動成果：未入力

振り返り

授業以外の実習やボランティア活動の状況

内容1
(1000文字以内)

内容2
(1000文字以内)

【履修カルテ（自己評価）】 ※教員免許状取得希望者のみ

- 教員養成課程の学生及び教員免許状取得を希望する教育協働学科の学生は、年度末に、当該年次の「自己評価」を4段階で入力することにより、教師になるために必要な資質能力（P.12）をどれだけ身に付けたか、レーダーチャートで確認することができます。

自己評価

1...良くない 2...まあ良い 3...良い 4...非常に良い

2018年度(1年次) +

2019年度(2年次) +

2020年度(3年次) +

2021年度(4年次) -

教育の理念・教育史・思想の理解

教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎的な理解ができていますか。 ○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4

教職の意義

教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。 ○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4

人権教育

人権教育の意義及び必要性についての基礎的な理解ができていますか。 ○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4

教師になるために必要な資質能力を身に付ける

生涯を通して日々成長を続ける教師であるためには、自らの意思によって自らの学びをデザインする力が必要となります。本学では、このような自らを育てる姿勢を培うため、履修カルテの活用を推進しています。履修カルテによって、これからの学修の目標を設定したり、学修の成果を蓄積したりしていくことで、自らの成長をふりかえり、次の目標の設定へと繋げることができます。

また、履修カルテでは、ふりかえりと目標の設定を効果的に行うことができるよう、教職に求められる資質能力を5つの指標と30の項目で提示しています。5つの指標と30の項目を手掛かりに、教科・教職科目、ボランティア活動等を通して学んだことをふりかえり、自らの到達点と課題を明らかにしましょう。

5つの指標

1. 教職に必要な素養

- 教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- 教職員や学校園外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。

- 人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- 子どもを能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

2. 指導内容の理解と実践力

- 幼稚園の保育又は小学校の各教科及び所属するコースに対応する中学校・高等学校の教科や教科外の指導に必要な専門知識・技能の基本を身に付けている。
- 学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校園の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。

- 子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や保育・授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- 学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や保育・授業づくりができる。

3. 子どもへの対応の理解

- 生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- 教育相談の意義や理論と幼児・児童・生徒を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや学校園外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- 進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要な基礎的な知識を身に付けている。

- 子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。
- 外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- 道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

4. ICTや教育データを利活用する力

- 学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や学校園務等にICTを活用するとともに、幼児・児童・生徒のICT活用能力を育成するための保育や授業を構想することができる。

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、幼児・児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

5. 教職力量を自らひらく力

- 実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的なコミュニケーションをとることができる。
- 自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- 生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

30の項目

- ①教育の理念・教育史・思想の理解
- ②教職の意義
- ③人権教育
- ④他者との連携・協力
- ⑤学校教育の社会的・制度的・経営的理念・学校安全
- ⑥自律的な学習

- ⑦各教科など
- ⑧教科書・学習指導要領
- ⑨学習指導法
- ⑩基礎知識・基礎学力
- ⑪教育課程の編成及び方法に関する基礎理論・知識
- ⑫授業分析
- ⑬教材研究・指導計画
- ⑭指導技術・態度
- ⑮アクティブ・ラーニングについての理解
- ⑯アクティブ・ラーニングを取り入れた指導
- ⑰学習環境の整備

- ⑱生徒指導
- ⑲学習集団の形成
- ⑳幼児・児童・生徒の理解
- ㉑個別・集団指導
- ㉒進路指導・キャリア教育
- ㉓子どもの発達に関する理解
- ㉔特別な支援を必要とする子どもへの対応
- ㉕道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間

- ㉖ICT活用
- ㉗教育データの活用

- ㉘社会人としての基本
- ㉙子どもに対する態度
- ㉚学び続ける力

教職課程履修者(教育実習参加者)用 ポートフォリオ

教員養成課程の学生及び
教員免許状取得を希望する教育協働学科の学生は、
次ページ以降も必ず確認してください。

- 4年間の教育実践の学びとポートフォリオ P.14へ
- 教育実習カレンダー P.16へ
- 「学修ポートフォリオ」(教育実習等の記録)とは P.17へ
- 「学修ポートフォリオ」(教育実習等の記録) 操作マニュアル P.18へ

教育実践活動において自己が目指す
教師像への道筋を確認するツールとして
「**自分づくりカレンダー(教育実践活動)**」
を開発しました。

右のQRコードから参照して、
学校インターンシップや
教育実習等に活用しましょう。



4年間の教育実践の学びとポートフォリオ

4年間の教育実践の学びから、学び続ける教師に

教職とは、子どもとともに学び続ける職業です。教師は、よりよい教育実践をめざして、子どもとの関わりや同僚との対話を通して自らの実践をふりかえり、自らの強みや弱みに気づき自己成長を遂げていきます。

みなさんも、自ら仮説や見通しをもって学校現場での実践に挑み、教育実習・インターンシップ活動等を通じて自らの実践を振り返り、「省察」科目において、新たな目標の設定、実践、振り返りを繰り返していきます。大学での学びをスタートとして、学び続け、常に成長を続ける教師を目指しましょう。

教職実践演習

教職実践演習は、教員免許状取得のための**必修科目（4回生開講）**です。皆さんが教師になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることを目的としています。教職生活の円滑なスタートを支援するものです。教職実践演習の受講に向けた準備として、**学修ポートフォリオを用いて、自己分析・課題確認を行います。**

学校インターンシップと教育実習による4年間の学校現場での実践的学修（小学校教育（夜間）5年専攻を除く）

4
回
生

併修実習（選択）

時期・・・5月～11月 [2週間]

学校インターンシップ（選択）

実施期間 [30時間]

(注) 一部の専攻・コースでは、4回生時にも基本実習を行います。

基本実習で身に付けた実践力にみぎをかける

基本実習後の学校インターンシップでは、特に、幼児・児童・生徒への指導や支援を充実させることができます。先生方の仕事の補助もきめ細やかに行うことができます。教師としての力を身に付ける仕上げの段階です。教員になることのモチベーションをさらに高めます。

「チーム学校」の役割を実践的に学ぶ

学校インターンシップ「連携協働活動演習」では、教員養成課程と教育協働学科の学生が協力して「チーム学校」の役割を実践的に学ぶことができます。※履修要件あり

3
回
生

基本実習（必修）

時期・・・9月 [3週間] ※一部の専攻・コースでは、実習期間が異なる
実習校園・・・附属学校園、公立幼・小・中学校・高校ほか

学校インターンシップ（選択）

※インターンシップ受入校園及び時期は、2回生と同様

学習指導と授業実践力を身に付ける

【必修】学校教育教員養成課程の全専攻及び養護教諭養成課程

幼児・児童・生徒の実態に応じた教材研究や授業づくりを経験することで、実践的な指導力を身に付けるとともに、教職の専門性を高めます。また、事後指導で省察を行うことで基本実習での学修は今後の教職への力と自信になります。

2
回
生

学校インターンシップ（必修）

時期・・・2月～1月 [60時間]
インターンシップ受入校園

・・・大阪府をはじめ、近隣の公立幼・小・中・高・特別支援学校、附属学校ほか

基本実習に備えて実践の基礎を身に付ける

【必修】学校教育教員養成課程の全専攻及び養護教諭養成課程

基本実習前の学校インターンシップは基本実習の準備段階と言えます。幼児・児童・生徒との関わりを深め、学級でのルールや幼児・児童・生徒の様子を理解し、先生方の仕事の補助をします。また、必修科目「教職専門性と省察」により、これまでの体験を省察するとともに、省察の基礎的理解や技法を学びます。

1
回
生

教職入門実習

(必修・教職のための省察入門で実施)

時期・・・6月 [1日間]

実習校園・・・柏原市・八尾市・東大阪市・守口市・大阪市などの
公立幼・小・中学校

教わる側から教える側へ視点を転換する

【必修】学校教育教員養成課程の全専攻及び養護教諭養成課程

教師の視点で子どもに関わる経験をし、学校現場の教師の姿を見て、教師についての理解を深めると同時に子どもへの関わり方を学びます。活動後の省察により得られた課題を学校インターンシップでさらに追及します。

※学校インターンシップは、所属する専攻や履修する回生などによって開講科目が異なります。

教職実践演習

第3ブロック
「ふりかえり」

課題に応じた
補完・発展学習の
成果を確認

第2ブロック
「ミニ講座」

個別課題に対応した
補完・発展学習

第1ブロック
「ガイダンス」

学修ポートフォリオ
による
自己分析・課題確認

教育実習

学校インターンシップ

省察・協働

・併修教育実習
・連携協働活動演習

省察・協働

・基本教育実習
・教職インターンシップII

省察

・学校インターンシップ体験
・幼児教育インターンシップ
・教職インターンシップ
・特別支援学校
インターンシップ

省察

教職入門実習

教職実践演習

教職基礎科目
(人権教育の基礎・小中一貫教育概論)

教職へのとびら
教職のための省察入門

教職実践演習

特別活動論
教育相談の理論と方法

生徒指導論
進路相談論
教育方法論

教育総論
発達と学習の心理学

教育データの活用
教科横断と探究学習

グローバル教育科目・情報活用科目・導入科目等
基盤教養科目(「思想と芸術」「国際と地域」「教育とキャリア」等)

ダイバーシティ教育

(「ダイバーシティと教育」「現代社会と子どもの権利」等)

学修ポートフォリオと指導教員

●到達目標(卒業までに身に付ける力)と授業科目との対応関係についても、学修ポートフォリオで示しています。

●指導教員とは、入学から卒業までの間、継続的に面談を行うこととなりますので、皆さんからも積極的に相談をし、4回生の「教職実践演習」受講時には、自分の強みと課題を自己評価できるようにしましょう。

★そのためにも、1回生の時から、学修ポートフォリオに自分の学びをしっかり記入しましょう。

スキル・理論
の獲得と
熟達化

見方・考え方
の変容

学修ポートフォリオによる学びの履歴の蓄積

指導教員による指導・助言(各学年 春・秋)

技術的省察
実践的省察
批判的省察

技術的省察
実践的省察
批判的省察

実践的省察
批判的省察

批判的省察

実践と省察のサイクル

- 技術的省察 すでになされた実践の有効性を問う
- 実践的省察 実践の意味を問う
- 批判的省察 これからの実践をつくる自己のあり方を問う

教育協働学科

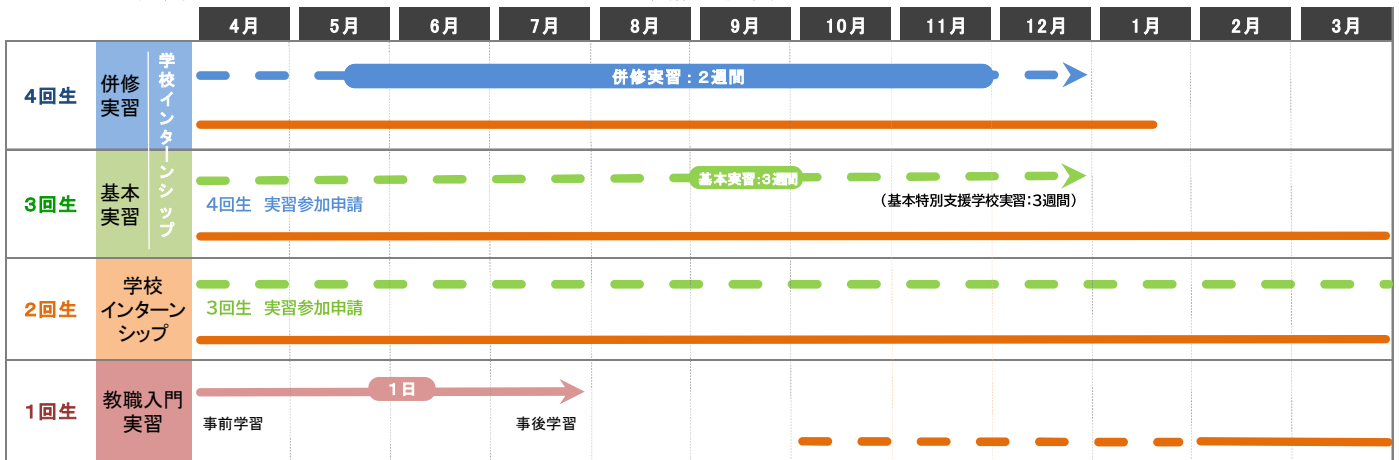
教員免許状取得を希望する学生は、卒業要件を満たすための科目以外に教員免許状を取得するための科目及び教職実践演習の履修が必要です。教育実習は、4回生で行っています。

小学校教育（夜間）5年専攻

5回生	教育実習Ⅱ（必修）	
4回生	教育実習Ⅰ（必修）	学校インターンシップⅡ（選択）
3回生		学校インターンシップⅠ（選択）
2回生		学校インターンシップ体験（必修）
1回生	教職入門実習（必修・教職のための省察入門で実施）	

教育実習カレンダー

学校教育教員養成課程（小学校教育（夜間）5年専攻を除く）・養護教諭養成課程

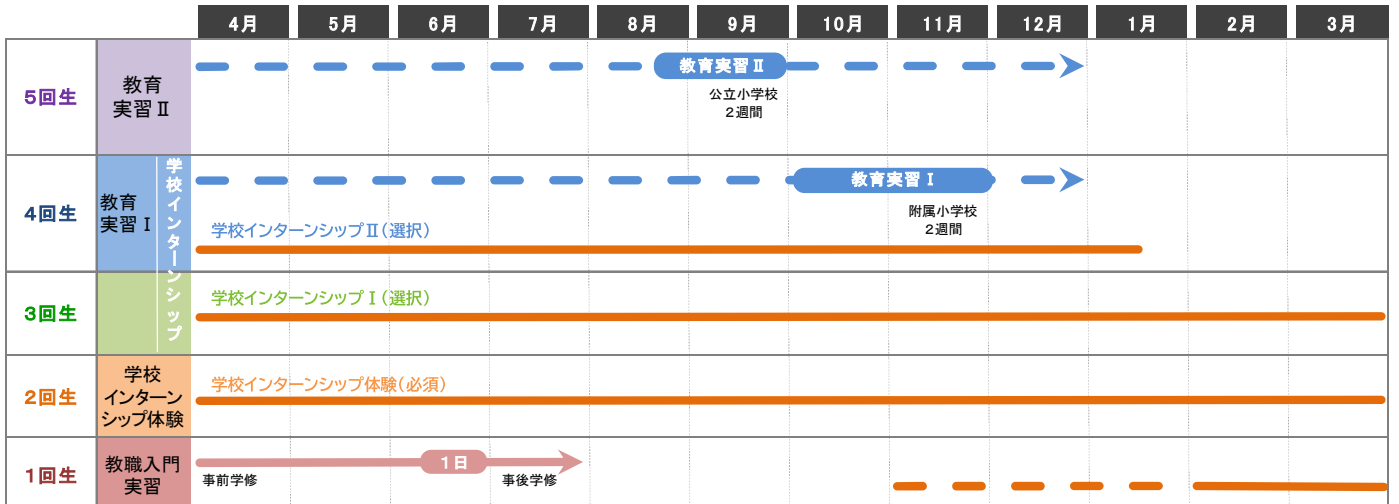


(注) 一部の専攻・コースでは、4回生時にも基本実習を行います。

教育協働学科



小学校教育（夜間）5年専攻



教育実習等の記録

教育実践の学びを学修ポートフォリオに

教員養成課程では、教職入門実習(1回生必修)、基本実習(3回生、一部4回生必修)、併修実習(4回生選択)と、学校インターンシップ活動を通じて、4年間の中で、教育実践力を培っていきます。活動の都度、Live Campusの学修ポートフォリオを活用し、学校園での体験を通して学んだこと・考えたことを記録し、省察の学びへと繋げましょう。

教育実習の目標

[幼児・児童・生徒への関わりと理解]

子ども理解・子どもの人権を尊重した関わり

[組織や集団への関わりと理解]

学級づくりや集団づくりへの関わり・教職員組織への関わり

[学習指導]

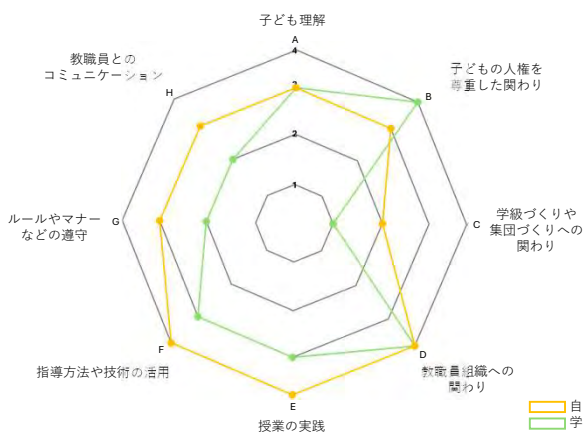
授業の実践・指導方法や技術の活用

[実習生としての信頼性]

ルールやマナーなどの遵守・教職員とのコミュニケーション

主に、学修成果を、教育実習ごとにまとめます。

ここでは、教員養成課程の基本実習(小・中・高)用の学修成果シートを例示します。



○それぞれの教育実習は、実習校園の評価をもとに、大学が評価します。

○自分の到達目標を設定し、実習にのぞみましょう。**実習終了後は、それぞれの指標について自分がどれだけ達成できたか、自己評価(4段階選択)を行いましょ。**

○教育協働学科における主な教育実習についても共通の内容になっています。

教育実践活動において自己が目指す教師像への道筋を確認するツールとして「**自分づくりカレンダー(教育実践活動)**」を開発しました。

右のQRコードから参照して、学校インターンシップや教育実習等に活用しましょう。



学修ポートフォリオ【教育実習等の記録入力】スケジュール

教育実習に参加する予定の学生は全員、教育実習の記録を入力してください。

時 期	学 生	教 員
実習校や活動を行う学校園が決まったとき	【教育実習・サポート活動歴】 教育実習・学校インターンシップ・学校サポート活動を行う「体験・実習(活動)先, 実習教科/評価授業等(科目名), 期間」を入力します。(実習教科/評価授業等: 教育実習と学校インターンシップ科目は履修科目, それ以外は学校サポート活動)	
		【教育実習・サポート活動歴】 指導教員が学生の体験・実習(活動)先等を確認します。
教育実習・学校インターンシップ・学校サポート活動後	【教育実習・サポート活動歴】 実習等を行った「体験・実習(活動)先, 実習教科/評価授業等(科目名), 期間」を入力(更新)します。	
	【教育実習評価欄】※教育実習のみ 実習終了後 1 週間程度を目途に自己評価(1 から 4) を入力します。	
		【教育実習・サポート活動歴】 指導教員が学生の教育実習・サポート活動内容を確認します。
		【教育実習評価欄】※教育実習のみ 指導教員が学生の自己評価を確認します。
教育実習の学校評価開示(事後面談) 前期 8 月 後期 1 月 頃	【教育実習評価欄】※教育実習のみ 学校評価(1 から 4) と自己評価の違いを確認し, 指導教員と振り返りを行います。	
		【教育実習評価欄】※教育実習のみ 指導教員が学校評価と学生の自己評価の違いなどを確認し, 事後指導(事後面談) に活用します。

学修ポートフォリオ【教育実習等の記録】操作マニュアル

【教育実習・サポート活動歴の入力】

- Live Campus にログインし、 menu から「学修ポートフォリオ>**履修カルテ**」を選択します。
履修カルテ一覧が表示されますので、「参照」ボタンを選択後、
画面右下の「履修カルテを編集」を選択します。
※メニューに、「教育実習等の記録」はありません
- 画面下部の「教職に関する体験・実習等の状況」欄から、以下内容を入力してください。
複数の実習等を行った場合は、「追加」ボタンを選択して入力欄を追加してください。

種別 必須	教育実習
体験・実習先等	〇〇市立〇〇小学校
実習教科/評価授業等	教職インターンシップ I
期間	2020/09/09 ~ 2020/09/27
学んだこと・課題	(学んだこと・課題の入力は任意です)
削除	<input type="checkbox"/> ?

+ 追加

登録

【教育実習評価欄の入力】

- Live Campus にログインし、 menu から「学修ポートフォリオ>**学修成果シート**」を選択します。
- 画面下部に、「基本実習」「併修実習」が表示されます。(次ページ参照)

※所属によって表示内容が異なります。

教員養成課程の各専攻・コースごとの表示内容の詳細は次ページを参照してください。

- ・基本実習 1・・・教員養成課程の基本実習，教育協働学科実習(中高・高)，小学校教育(夜間)5年専攻実習 I
- ・基本実習 2・・・次世代教育専攻 ICT 教育コース①②・教科教育専攻美術・書道教育コース（書道分野）の基本実習，特別支援教育専攻の特支実習，小学校教育(夜間)5年専攻実習 II
- ・併修実習 1・・・教員養成課程の併修実習
- ・併修実習 2・・・教員養成課程の併修特支実習

●今年度参加した実習の「活動成果」を選択します。（「目標」も表示されますが、使用しません）

※昨年度以前に実習参加した場合、「過去分を見る」ボタンから昨年度の入力内容を参照できます。

例：2021年度教員養成課程4回生が、3回生時に参加した基本実習を参照する場合
→「基本実習1」の「2020年度(3年)の目標・成果」の「活動成果」を選択してください。

※5回生以上で今年度実習参加した方は、(4年)の欄に入力してください。

学修成果一覧

学修成果評価

2021年度 後期(4年)の目標・成果

目標 >

未入力 入力中 提出済 教員確認済

活動成果 >

未入力 入力中 提出済 教員確認済

過去分を見る >

基本実習1

2021年度(4年)の目標・成果

目標 >

未入力 入力中 提出済 教員確認済

活動成果 >

未入力 入力中 提出済 教員確認済

過去分を見る >

併修実習1

2021年度(4年)の目標・成果

目標 >

未入力 入力中 提出済 教員確認済

活動成果 >

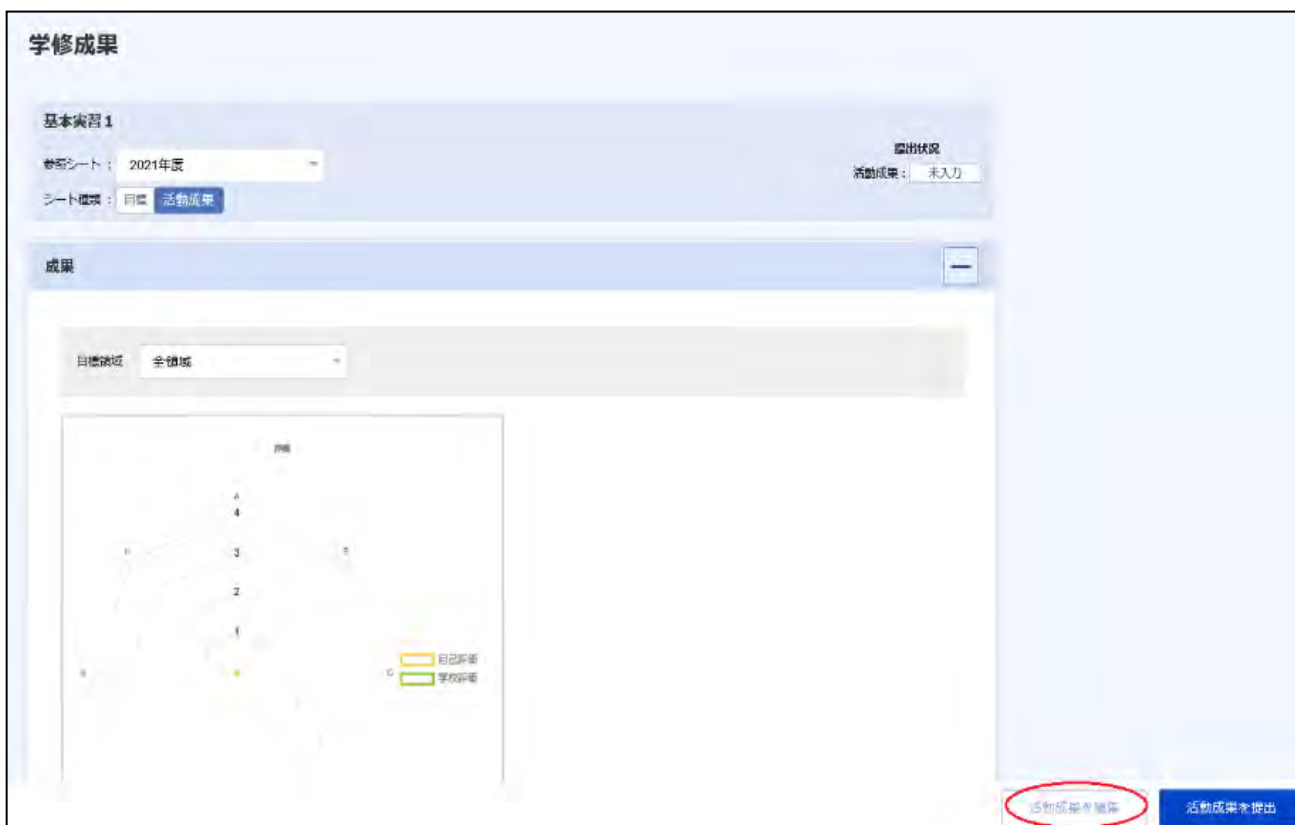
未入力 入力中 提出済 教員確認済

過去分を見る >

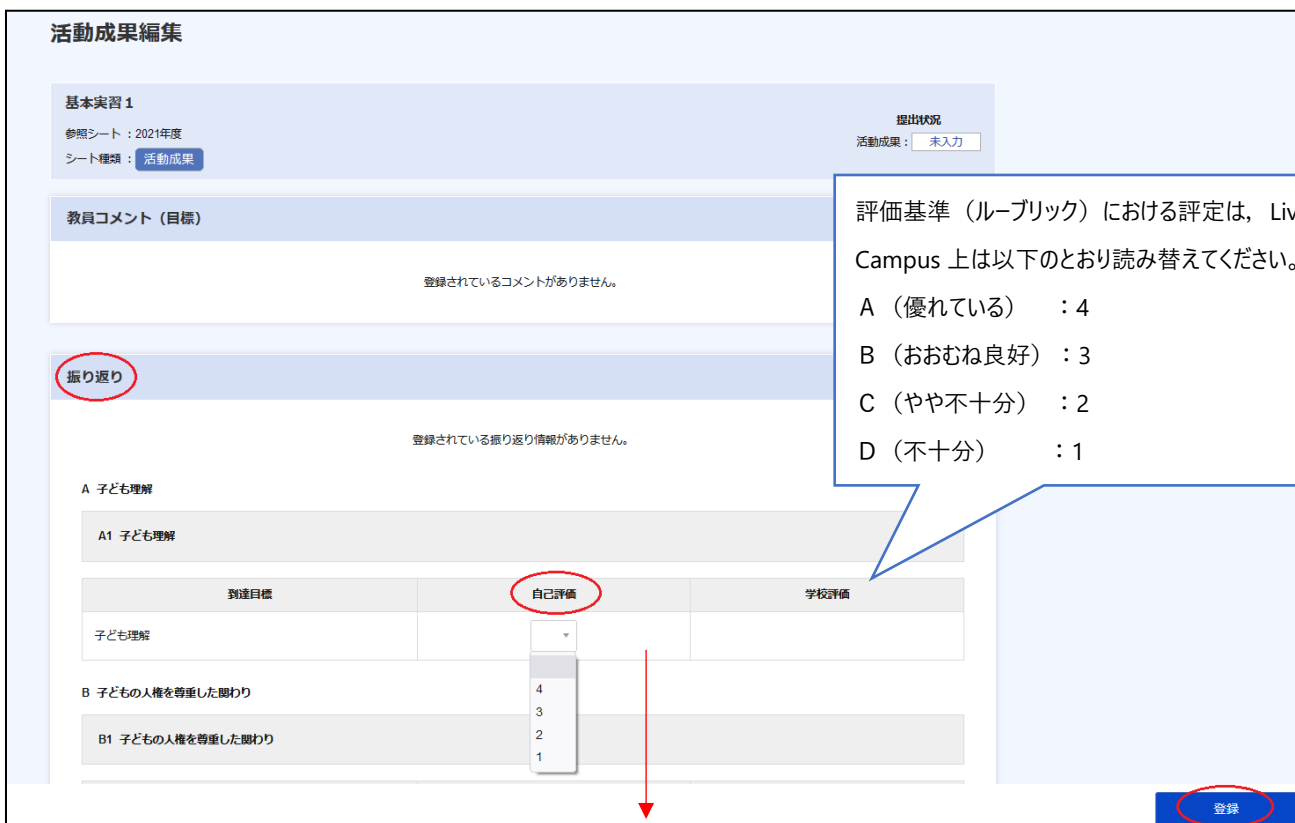
専攻・コースごとの LCU ポートフォリオ表示内容

専攻・コース	開講 回生	実習種別	LCUポートフォリオ 表示内容
幼小教育専攻 幼児教育コース	3	幼稚園実習	基本実習1
幼小教育専攻 小学校教育コース	3	基本小学校実習	基本実習1
	4	併修中・高校実習	併修実習1
	4	併修特別支援実習	併修実習2
次世代教育専攻 教育探究コース	3	基本小学校実習	基本実習1
	4	併修高校実習	併修実習1
	4	併修特別支援実習	併修実習2
次世代教育専攻 ICT教育コース①	3	基本高校実習(情報)	基本実習1
	4	基本小学校実習	基本実習2
	4	併修特別支援実習	併修実習2
次世代教育専攻 ICT教育コース②	3	基本高校実習(情報)	基本実習1
	4	基本中学校実習(数学)	基本実習2
	4	併修小学校実習	併修実習1
教科教育専攻 教科教育コース 書道分野除く	3	基本小・中学校実習	基本実習1
	4	併修高校実習	併修実習1
	4	併修特別支援実習	併修実習2
教科教育専攻 教科教育コース 書道分野	3	基本小学校実習	基本実習1
	4	基本高校実習(書道)	基本実習2
	4	併修特別支援実習	併修実習2
特別支援教育専攻	3	基本小学校実習	基本実習1
	3	基本特別支援実習	基本実習2
養護教諭養成課程	3	併修高校実習	併修実習1
	3	養護実習	基本実習1
小学校教育(夜間) 5年専攻	4	小学校Ⅰ実習	基本実習1
	5	小学校Ⅱ実習	基本実習2

- 画面右下の「活動成果を編集」を選択します。



- 「振り返り」の各項目にある「自己評価」を入力してください。
8項目すべて入力後、画面右下の「登録」ボタンを選択してください。



- 登録後、入力内容がレーダーチャートに反映されていますので、確認の上、画面右下の「活動成果を提出」ボタンを選択してください。これで入力完了です。
なお、レーダーチャート下部の「評価基準（ルーブリック）について」を選択すると、教育実習の評価規準とルーブリックを PDF ファイルで確認できます。

学修成果

基本実習 1

参照シート： 2021年度

シート種類： 目標 活動成果

提出状況
活動成果： 入力中

成果

目標領域 全領域

評価

自己評価
学校評価

評価基準 (ルーブリック) について>

活動成果を編集 活動成果を提出



国立大学法人

大阪教育大学

大阪教育大学 教務課

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

TEL.072-978-3265

<http://osaka-kyoiku.ac.jp/>